

令和7年3月24日

世田谷区立世田谷小学校
校長 金子 佳生 様

世田谷小学校関係者評価委員会
委員長 森岡美佳
委 員 佐藤弘康、久保田愛子
松野佳子、和田昌幸
事務局 副校長 横井 綾子

令和6年度 学校関係者評価委員会報告書

世田谷区立世田谷小学校学校関係者評価委員会では、世田谷区評価共通項目、学校独自評価項目、および、重点目標の考察、委員による教育活動の参観などをもとに令和6年度の諸活動を検討し考察を行いました。評価報告書の作成にあたっては、客觀性・妥當性を重んじ、次年度の教育計画に反映しやすいように、ポイントを絞って提言致します。

○ アンケートの回収率

保護者 65.9%
児童 97 %
地域 60 %

○ 評価の大項目

- I 児童アンケートの結果
- II 保護者アンケートの結果
- III 地域アンケートの結果
- IV 総括

○ 評価委員会としての共通理解

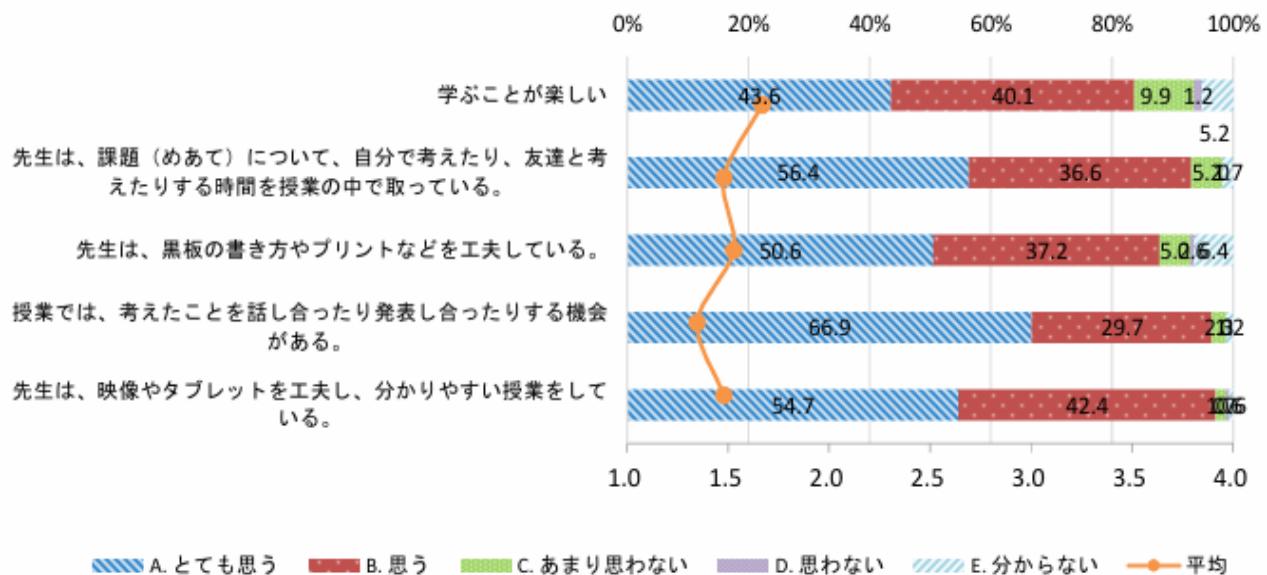
- ・「とても思う」(A) + 「思う」(B) →プラス面
- ・「あまり思わない」(C) + 「思わない」(D) →努力目標、検討項目（顕著な数値を注視）
- ・「わからない」(E) →その背景に注目する必要有り

I 児童アンケートの結果

高学年（5・6年生）を対象とした結果の概要を以下に記載する。

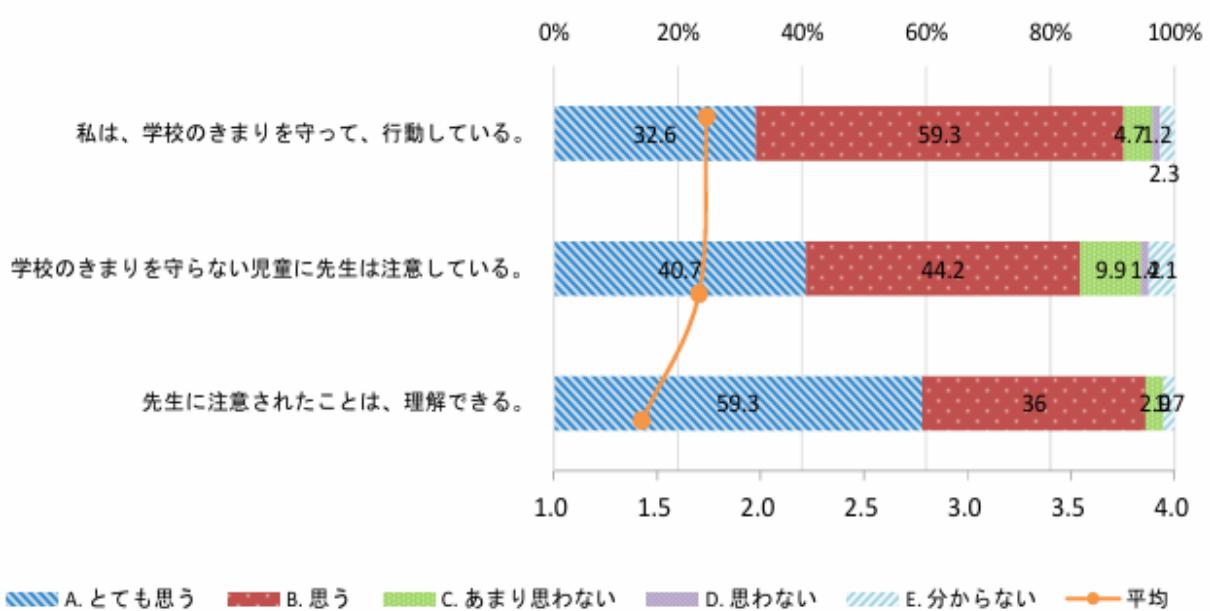
1. 学習面

1.学習について



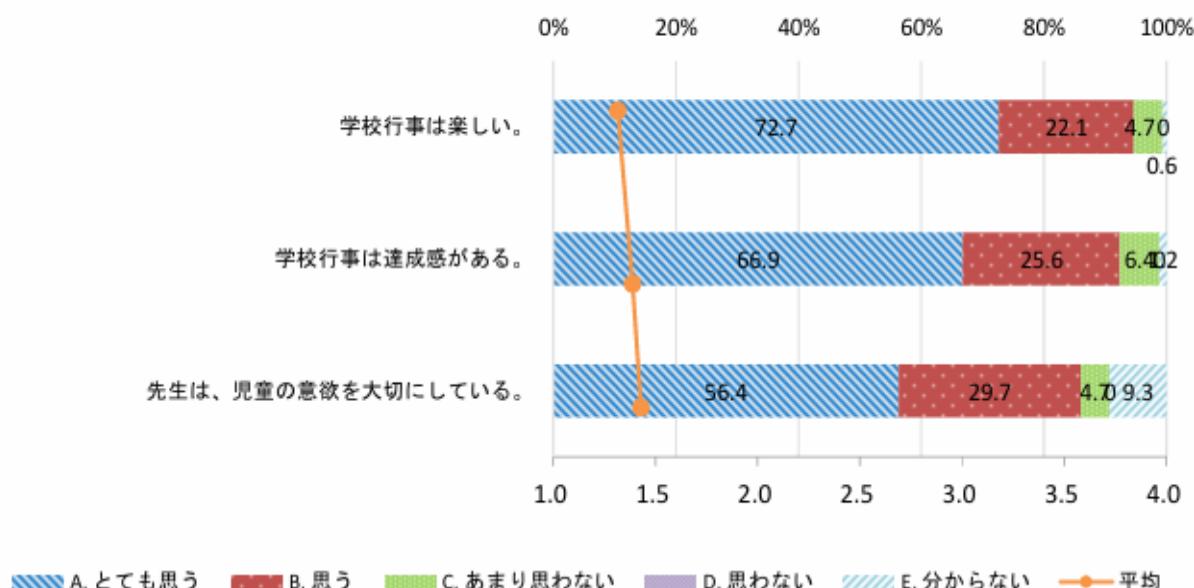
2. 生活指導面

2.生活指導について



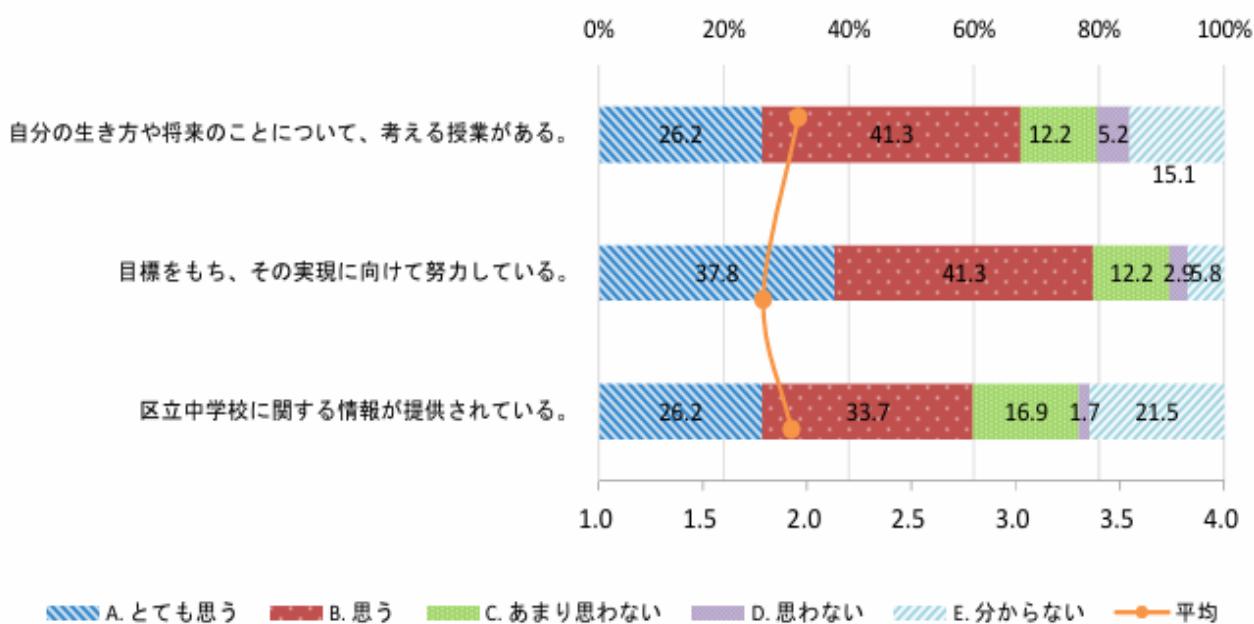
3. 行事等

3.学校行事(運動会・学芸会、学習発表会、宿泊行事など)について



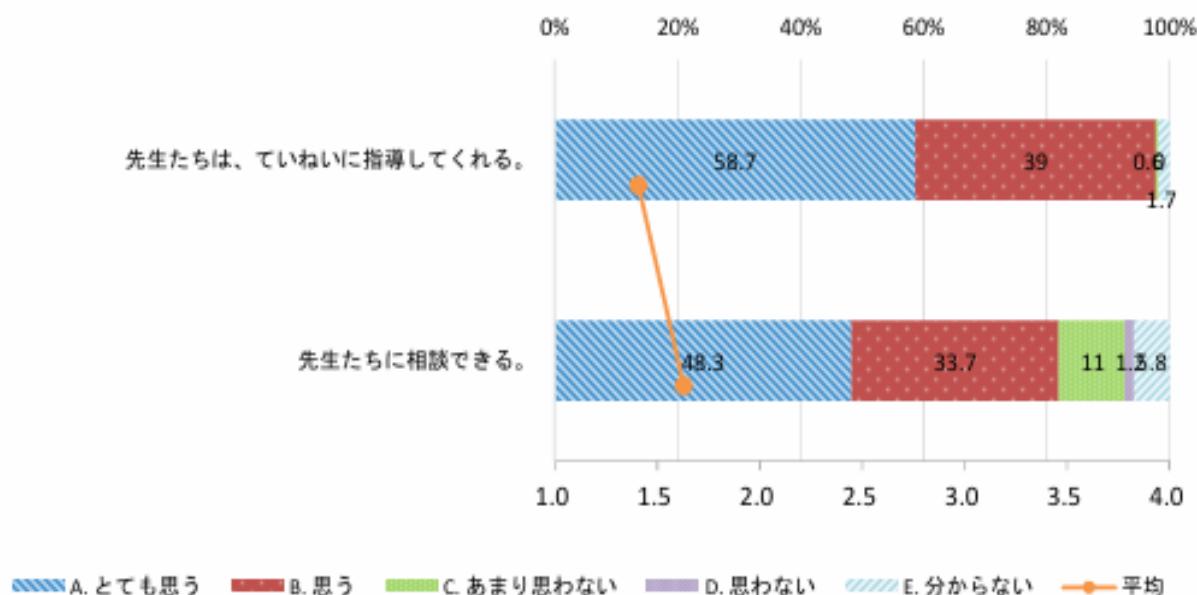
4. キャリア教育

4.キャリア教育について



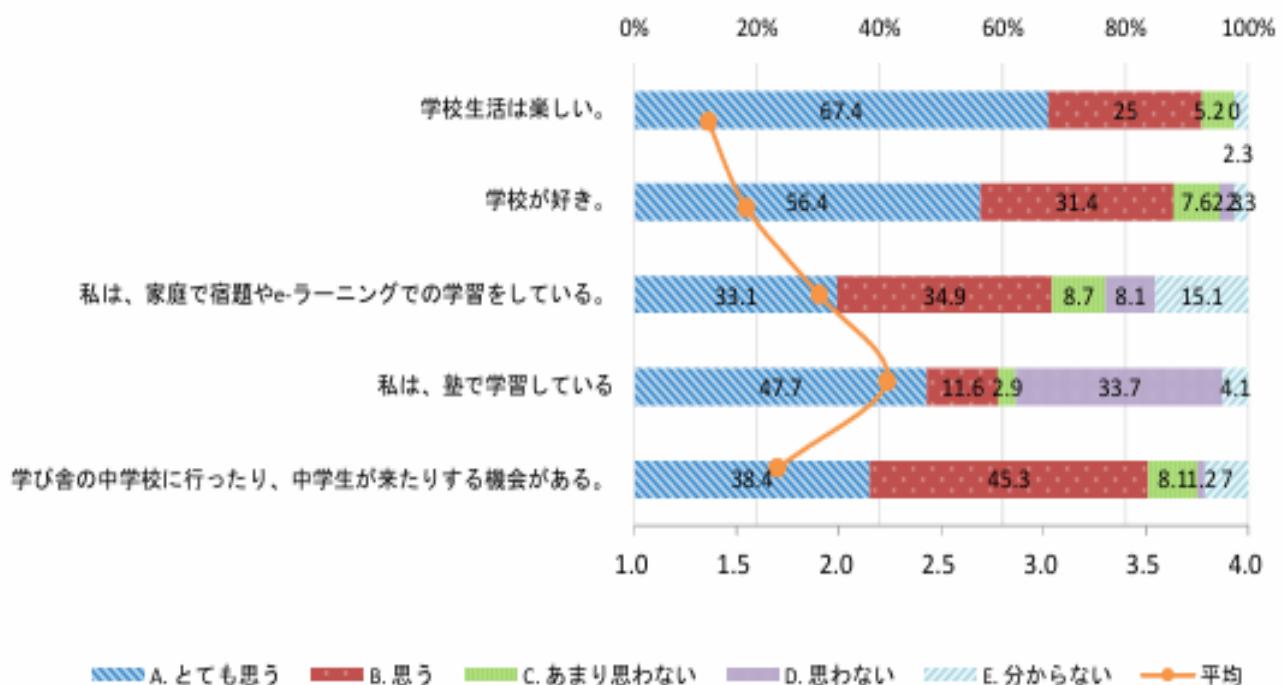
5. 先生について

5.先生について

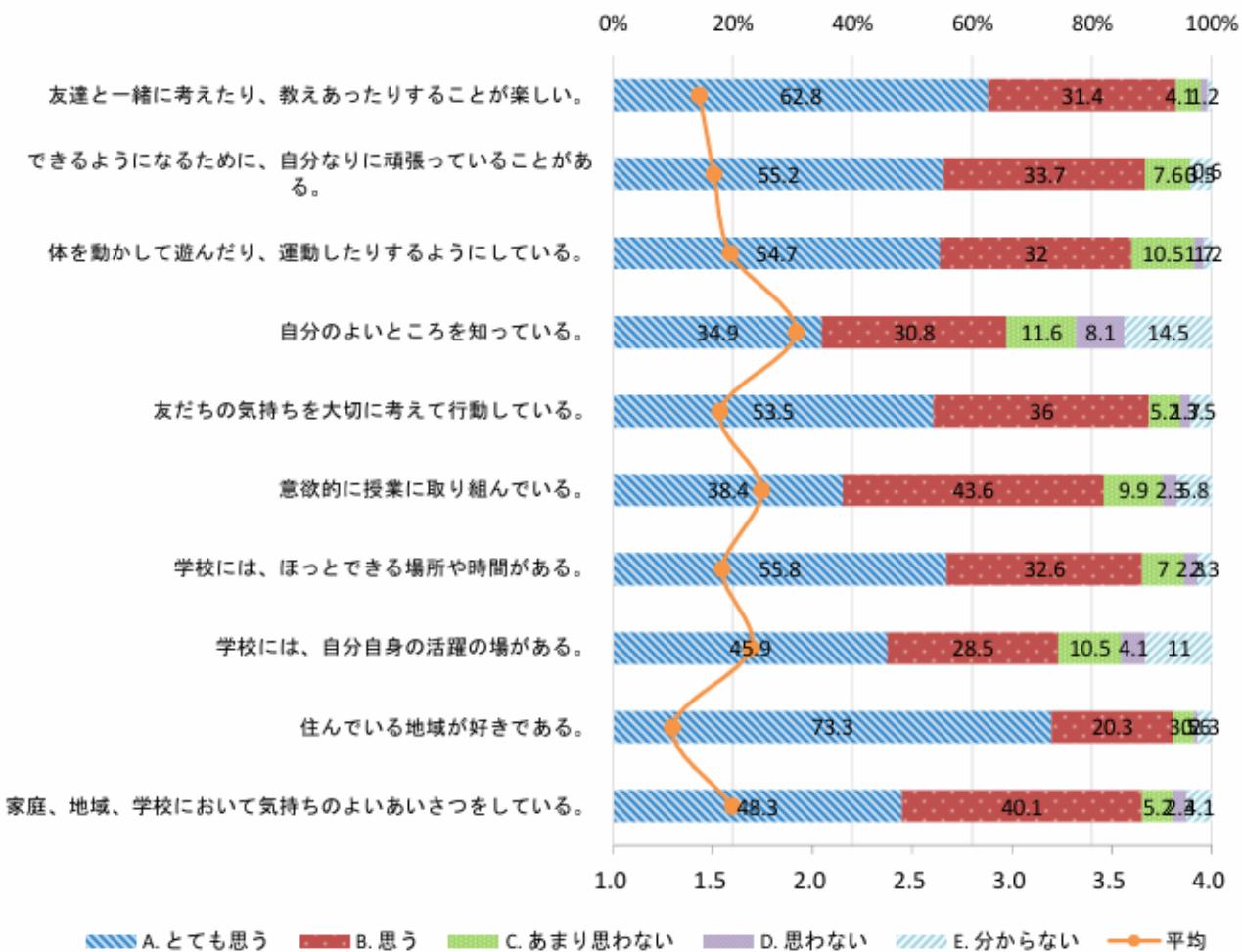


6. 全般について

6.全般について



7. 学校で設定した項目



【結果まとめ】

- ほとんどの項目が8割を超える多くの高学年児童が学校での活動に満足している様子がみてとれる
 - 特に95%以上の肯定的評価が集まった項目は以下の通り
 - ✧ 先生たちは、ていねいに指導してくれる
 - ✧ 先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている
 - ✧ 授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある
 - ✧ 先生に注意されたことは、理解できる
- 肯定的評価が8割に満たなかった項目
 - キャリア教育の全項目
 - ✧ 自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある…肯定的評価68% (前年度73%)
 - ✧ 目標をもち、その実現に向けて努力している…肯定的評価70% (前年度82%)
 - ✧ 区立中学校に関する情報が提供されている…肯定的評価60% (前年度71%)
 - 学校で設定した項目
 - ✧ 自分のよいところを知っている…肯定的評価66% (前年度67%)
 - ✧ 学校には自分自身の活躍の場がある…肯定的評価74% (前年度77%)
- 否定的評価が2割を超えた項目
 - ✧ 区立中学校に関する情報が提供されている…否定的評価21% (前年度15%)

【考察】

今年度は、全学年の児童の結果ではなく、5・6年生児童の結果のみを見ていくこととなったが、ほとんどの項目で肯定的評価が8割を超え、全体的に高い評価を得ていることに変わりはないと言える。特に、先生に対する評価・先生が関係する授業に対する評価が高学年でここまで高いことは、かなり特筆すべき点であると言えよう。

そこで、以下、結果のまとめでも示した2点に分けて考察を行う。

1) 肯定的評価が95%以上の項目について

「先生たちは、ていねいに指導してくれる」の肯定的評価は97.7%であり、「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」は、97.1%、「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」も96.6%であった。高学年では、担任だけではなく、専科の先生も含めて、複数の教師が授業に関わることになるが、いずれの教師も子どもたちに丁寧に関わり、映像やタブレットを用いながら、分かりやすい授業を行う工夫を常に行っている、そして自身も研鑽を積んでいらっしゃる成果が表れていることが分かる。学校校長からは、特に若手の先生を中心とした勉強会を校内で実施している旨を伺った。激務の中、目の前の子どもたちのために努力される先生方には頭が下がる思いである。

本ページの下方に掲載した本年度の世田谷小学校重点目標1・2は、学習に関する内容である。子どもたち各自の「やりたい」を実現するために、教師が子どもを導き、時には寄り添いながら、個々を見、主体性を伸ばす教育を意識している姿が想像できる。

こうした教師への信頼が、「先生に注意されたことは、理解できる」95.3%、中でも「とても思う」が6割近くを占める高い数値となって表れていると考えられる。教師への信頼が学校への信頼に繋がり、学校自体が「一人一人の居場所」として子どもが捉えることができており、学校への安心感を生み出す大きな要因となっているのだろう。

2) 肯定的評価が8割に満たなかった項目と否定的評価が2割を超えた項目について

今年度は、キャリア教育の全項目が肯定的評価の70%以下であった。中でも、「区立中学校に関する情報が提供されている」の肯定的評価は60%、否定的評価が21%と目につく数値となった。小学生にとっては、将来の夢や就きたい職業、やりたいことはまだ漠然としたイメージでしかないものであることは頷ける。

子どもたちはおそらく、道徳の時間や総合的な学習の時間の中でキャリア教育に関する話題が出たり、ゲストスピーカーの話を聞く機会があつたりする中で、自分の生き方や将来についてのイメージを持って行くことが考えられる。前年度からの比べると数値としては下がってはいるが、こちらについては、次年度の授業で期待したい点である。そして願わくは、将来の職業だけではなく、まずは今の自分を考えて目標をもち、その実現に向けて努力することに喜びを見出せるようになってほしい。

また、区立中学校に関する情報提供に関しては、5年生と6年生で意識の差や中学生と触れ合う機会に差があることが考えられる。情報を受け取ったり触れ合ったりする機会がないわけではなく、単に数としては少ない、ということも考えられる。こちらについては、「巴の学び舎」として接する機会がしっかりと確保できる状況を、今後も要望したい。

【学校経営方針】

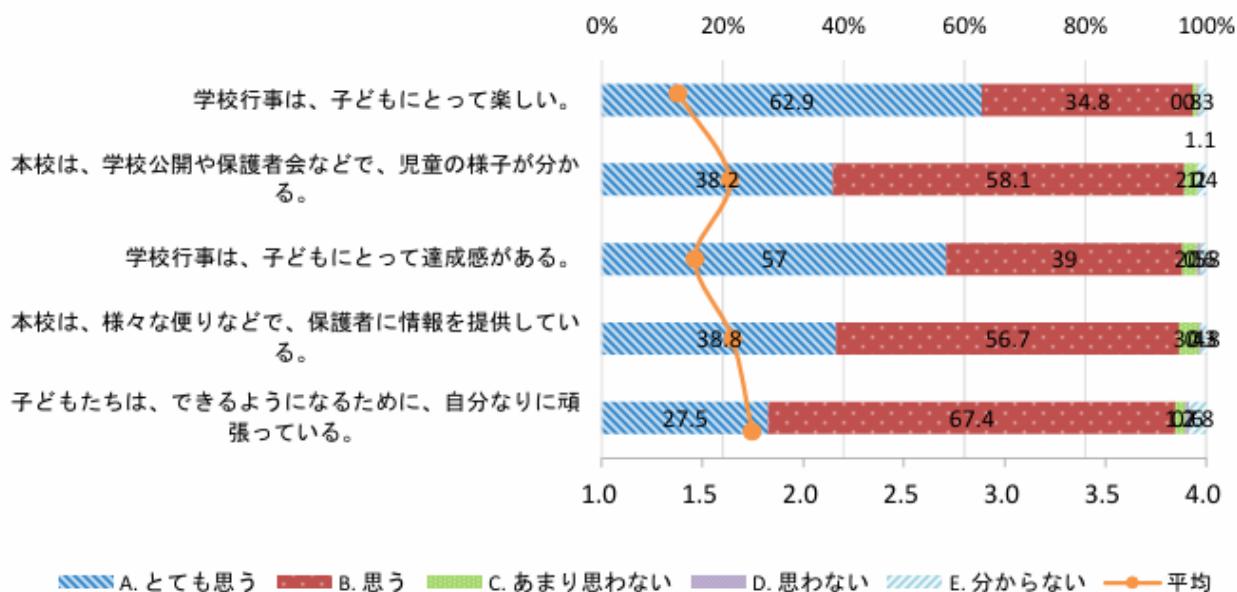
「子どもが自ら育つ学校」～みんなに居場所がある楽しい学校～

- 重点目標1：子どもの「やりたい」が実現でき、子ども自ら学習する学校
- 重点目標2：1人1台端末を活用し、「個別最適な学び」「共同的な学び」を実現させ児童が「わかる喜び」を実感できる学校
- 重点目標3：児童一人一人に居場所があり、それぞれの多様な個性を生かし、認め合い、共に学び育つ学校

II 保護者アンケートの結果

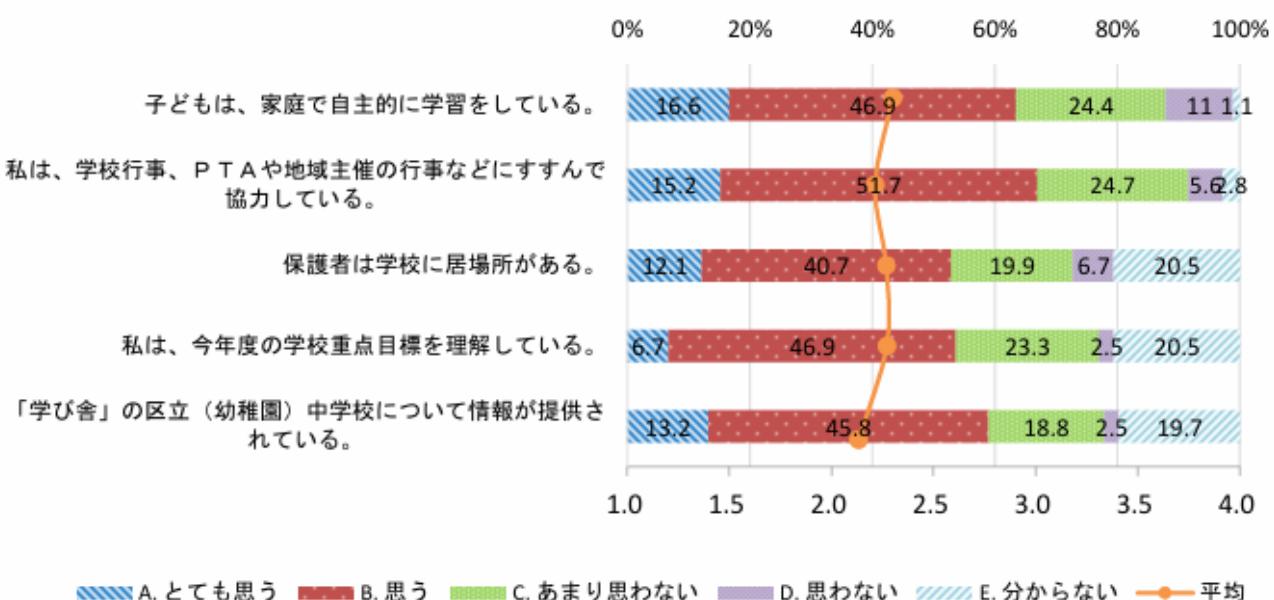
1. 肯定的回答が多かった項目

肯定的回答（「とても思う」「思う」）の多かった項目



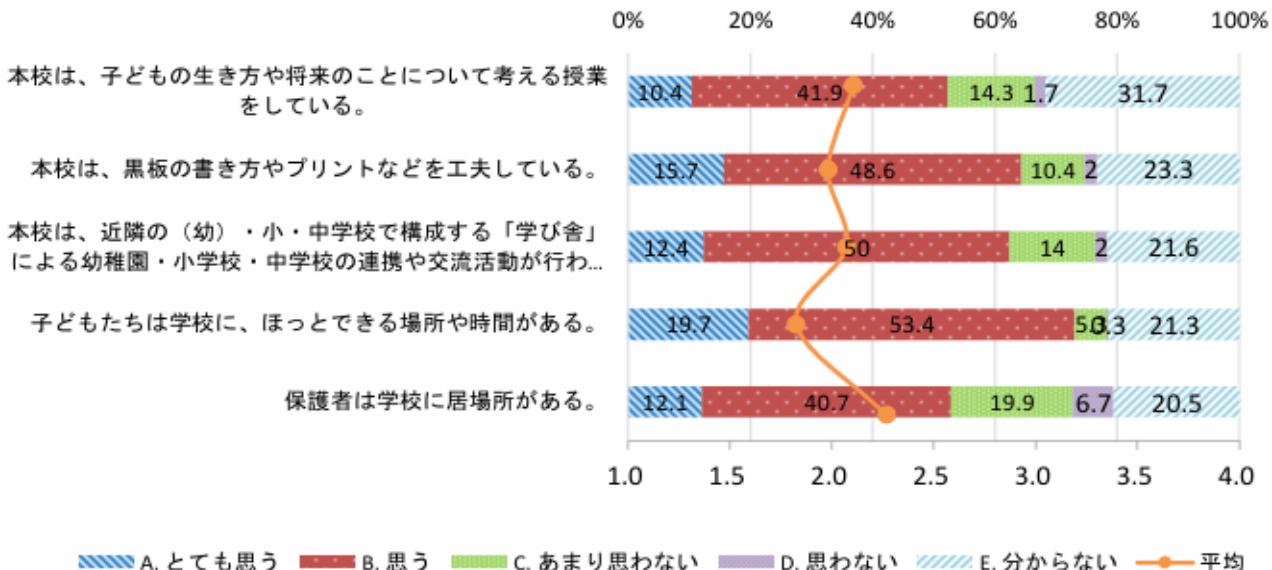
2. 否定的回答が多かった項目

否定的回答（「あまり思わない」「思わない」）の多かった項目



3. 「わからない」が多かった項目

「わからない」という回答の多かった項目



【考察】

肯定的回答が多かった項目では昨年同様、学校行事、学校公開に関する保護者の評価は非常に高く、保護者との良好な関係性が伺える。「子どもたちは、できるようになるために、自分なりに頑張っている。」という項目の肯定的意見が多かったことは喜ばしいことであり、学校側の姿勢、取組みがきちんと保護者に伝わっており、なおかつ評価されたということなのであろう。

否定的回答が多かった項目では「保護者は学校に居場所がある。」という項目で半数近く否定的な回答が多くなった。本件については学校側と保護者の間に意識の差があるように思われる。学校は保護者の来訪を促したいのであれば、その思い・ねらいをもう少し丁寧に、繰り返し説明していくべきなのかもしれない。その辺りがうまく伝われば本項目は大きく改善される可能性があり次年度の結果に期待したい。

「わからない」という回答が多かった項目で「子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」があげられたことは気になる点である。昨年も同じような状況であり学校側としては取り組みについての情報提供の仕方等をもう少し工夫する必要があるのかもしれない。

本校は学習・生活指導や学校行事などの教育活動全般において保護者から非常に高い評価を得ている。アンケート結果からは子供たちは楽しく学校に通っており、充実した小学校生活を行っていると保護者が感じていることが伺える。これは長年の先生方の取り組み、努力によるものであると考える。いくつか課題はあるものの、それは伸びしろであり、今後もよりよい学校運営を目指して頑張っていただきたい。

また、違った視点から

「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子がわかる」と肯定的回答があるものの「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」がわからないという回答が多く先生方の努力が伝わっていないのは、残念に思う。学校・学年・学級の各おたよりで、どんな点を工夫しているのかを説明できれば良いのではないかと思う。ただ難点は、児童がそれを読んだ時に、種明かしになってしまうかもしれない点。

否定的回答が多かった「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している」と「保護者は学校に居場所がある」という設問において、共通点があるように感じられる。学校行事、PTA、地域主催行事とは異なる「保護者の居場所」をつくることができれば、いずれの設問においても改善が見込まれると考えられる。ほんの数分でできることから、時間をかける大きな行事まで、保護者が関わることのできる多くのことを創出することも検討の余地があるかもしれない。

また「子どもは、家庭で自主的に学習をしている」という項目について、5・6年生の時点で児童が自主

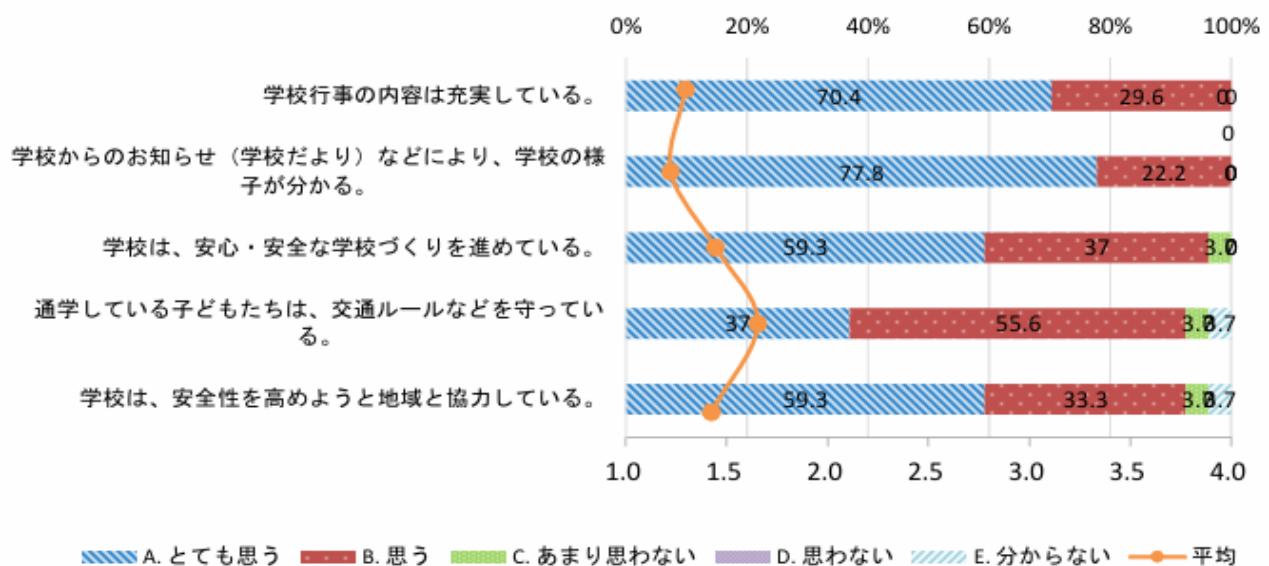
的に学習を本当にしていないとすれば、1年生の頃から、例えば親の伴走があればより良い学びの習慣になるという宿題なども取り入れることを検討し、長期的な改善に取り組んでは、どうかと思う。

この保護者のアンケート結果考察は、否定的回答と分からぬという回答に着目しているが総じて、本校は保護者また児童からも高い支持を得ているということに、先生方は自信と誇りをお持ち頂き、前述のような課題にも目を向けてお取り組み頂ければと思う。

III 地域アンケートの結果

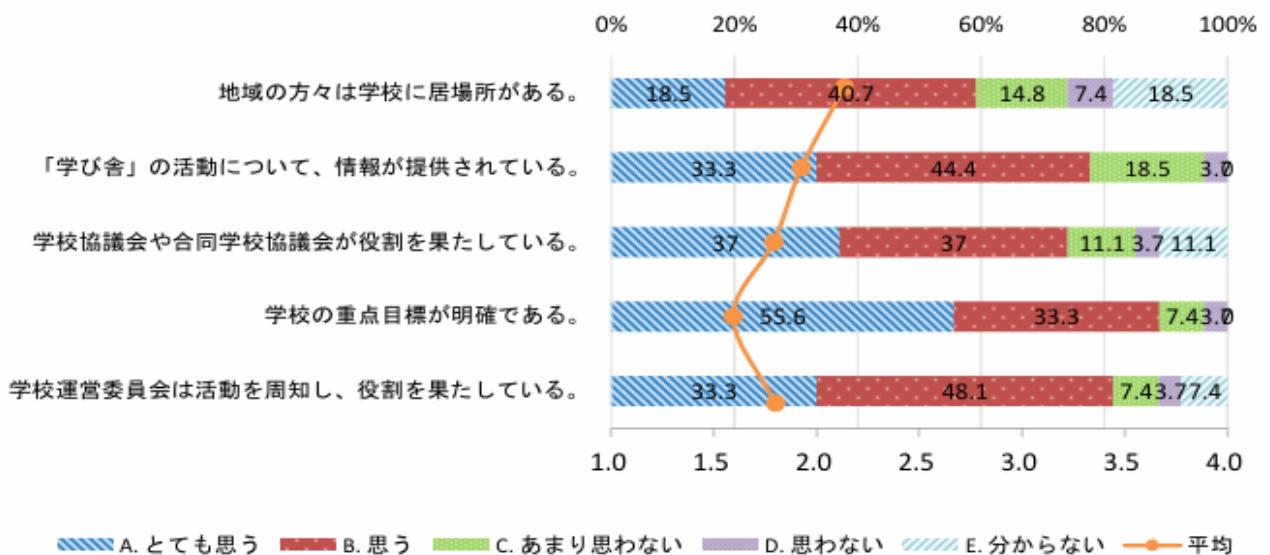
1. 肯定的回答が多かった項目

肯定的回答（「とても思う」「思う」）の多かった項目

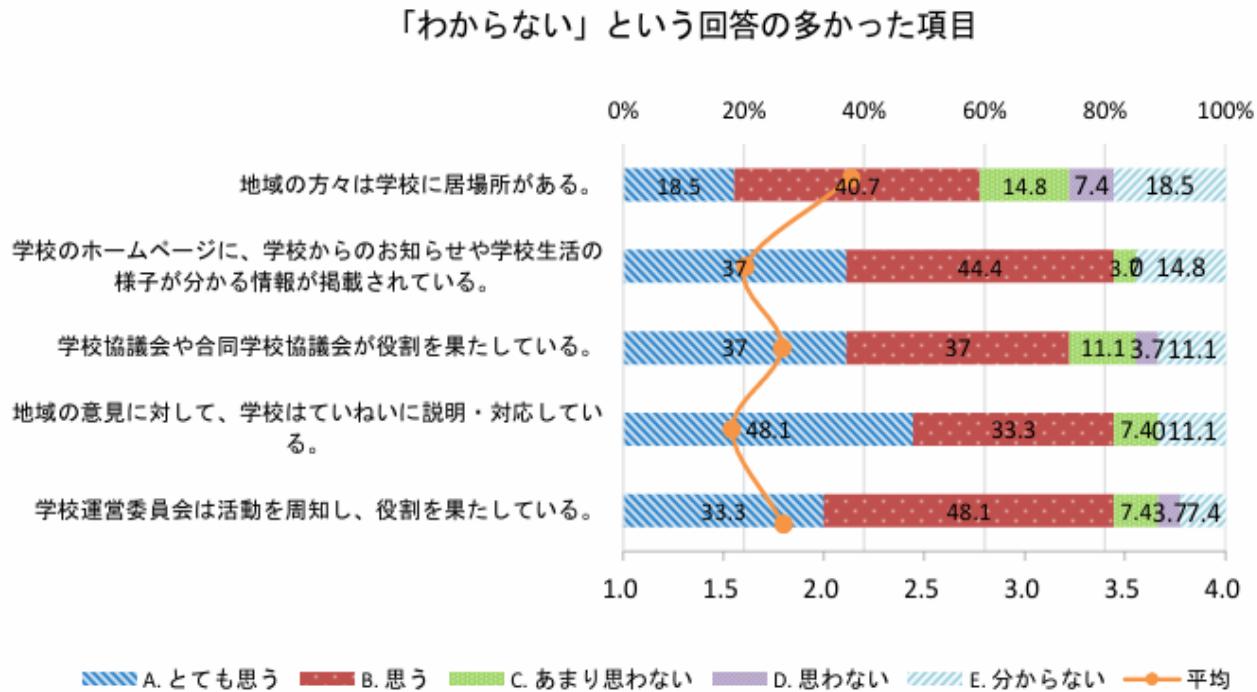


2. 否定的回答が多かった項目

否定的回答（「あまり思わない」「思わない」）の多かった項目



3. 「わからない」が多かった項目



【結果まとめ】

- ほとんどの項目で評価が高く、児童の安全面の見守りや学校情報提供が地域に伝わり良好な関係性である事がうかがえる。
 - 特に95%以上の肯定的評価が集まった項目は以下の通り
 - 通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている(100%)
 - 学校行事の内容は充実している(100%)
 - 学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子がわかる(100%)
 - 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている(96.3%)
- 肯定的評価が8割に満たなかった項目
 - 「学び舎」の活動について、情報が提供されている(77.7%)
 - 学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている(74%)
 - 地域の方々は学校に居場所がある(59.2%)

【考察】

地域の方々は学校の様子を主に学校行事・通学時の児童の様子・学校のおしらせ(学校だより)等で知り得ている事がわかる。学校の情報発信のツールとしてHPもあるが、地域方々に限っていえば学校だよりの方が有益であると考えられる。今回肯定的な評価が8割に届かなかった「学び舎」、学校協議会や合同学校協議会の情報を学校便りにて発信するのも有効ではないかと思われる。

また、学校における居場所については残念ながら評価が低い結果となってしまった。しかし半数以上の方(59.2%)が学校に居場所があると回答頂いている。いよいよ食堂の活動やいぶきのパトロールを始めとする様々な活動が地域の協力を得ながら行われていることも一因と推測される。学校と共に地域活動が継続していく事に期待したい。

V 総括

学校評価アンケートにご回答いただきましてありがとうございました。皆様からの貴重なアンケートを元に学校関係者評価委員会として真摯に分析・検討させて頂きました。

さて、アンケートの評価を総合的に見ると児童・保護者・地域とも世田谷小学校の評価は全体的にとても高いように思われる。昨年度から引き続き「はじめに子どももありき」という教育理念の元、「子どもが自ら育つ学校」～みんなに居場所がある楽しい学校～を目指して学校・保護者・地域が共に取り組んでいる事が見て取れました。

重点目標1 子どもの「やりたい」が実現でき、子ども自ら学習する学校について

重点目標2 一人一人端末を活用し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させ、子どもが「わかる喜び」を実感できる学校

重点目標3 子ども一人一人に居場所があり、それぞれの多様な個性を生かし、認め合い共に学び育つ学校

昨年度から引き続き、授業では1つの分野（教科）だけではなく児童の興味関心に沿って再構成し、児童の主体性を引き出していることがよくわかりました。自由進度学習も参観させて頂きましたが、子どもたちは自分のペースで課題に取り組み、自分で考え、時には他の子たちと協働しながらテーマを追求していました。どの児童も楽しみながら授業に取り組んでいたのが印象的でした。ある来校時に、仲良しの児童たちが育てた野菜について私にいろいろ説明してくれました。その時も楽しそうに一生懸命話してくれたことが印象的でした。また、展覧会では児童が学芸員として作者の作品に込めた思いなどを代弁してくれました。それによって作品を違った視点で見ることが出来てとても興味深かったです。展覧会前に作品についていろいろ話し合っている様子が目に浮かびました。どちらの場合も授業の過程がとても充実していたのだろうと想像できました。今後も主体的に学び、興味を探究し心から楽しい自分なりの学習スタイルが見つかる事に期待するところです。

また「ほっとルーム」を昨年度より増やしたり、組織的な支援体制のもと教職員が連携し課題に取り組んだ結果、学校にほっとできる場所や時間があると思っている児童が88.4%、保護者62.7%と肯定的回答に繋がっています。ただし1割の児童は居心地の悪さを感じているのも確かです。その児童たちにも居心地の良さを感じもらえるよう更なる取り組みに期待したいと思います。また、保護者運営の「わかばカフェ」、地域運営の「いよよ食堂」が児童の居場所や支援だけでなく保護者・地域の方々への居場所作りに展開できつある様に思われます。今年度の重点目標はほぼ達成できていると思われます。課題については更なる検討をお願いしたいです。

さて「学び舎」の情報提供については、児童・保護者・地域とも評価が低く引き続きの検討課題です。関わる児童（学年）が限られていることも一因ではありますが、先日開催された地域のドッジボール大会では参加児童がボランティアに参加して、ゲームの審判などをしている中学生（桜木中生徒含）を見て「あのようにになりたい」と憧れを持って話してくれていたことを耳にしました。学び舎としての認知は低いが、地域においてしっかりと交流は出来ているのだと思い少し安心しました。「学び舎」の情報提供として学校だよりやHPの引き続きの活用・児童と生徒の交流を含めた機会の拡充、充実をお願いしたいです。

最後に明日を担う子供たちのために学校評価委員会の評価を生かして子供たちが夢を持ち、充実した世田谷小学校の伝統ある教育が展開されることを願うところであります。